

# 【プラチナファーマーの会】 日本農業技術経営会議設立と活動の経緯

Japan Agricultural Management of Technology Conference (JAMOTC)

今まで約7年間にわたり、このメンバーで技術経営（Management of Technology）のことを学び、具体的にどうしたことなのかをセミナーやフィールドワークなどを通して体験してきました。この取組を行うにあたり、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）、関係者の皆様には、多大なるご尽力とご支援を賜りサポートして下さったことに敬意を表し、御礼を申し上げる次第です。

私たちは、農業者自らが、自らの手で関係者の皆様と協働し、技術と経営のシナジーを最大化し、日本農業の未来を切り開き、それを仲間である地域の農業者とともに共有し、持続的な農業を創り、社会的責任を果たしてゆきたいと考えています。

代表 尾藤光一

農業現場が困っていることを解決する技術を創り経営に実装します。

農業者自らが、農業技術や農業分野での大きな障害となっている課題を農業者と関係者が協働し、現場目線で社会に実装できるイノベーションを生み出し、経営とのシナジーにより、によって生産現場を改革してゆきます。そのことを技術経営（Management of Technology）といいます。具体的には次の3つの考え方で取組ます。

- 1、【イノベティブアグリカルチャーへのドライブ】
- 2、【リードユーザーイノベーションとキーマスターとのシナジー】
- 3、【技術経営×地域経営とのシナジー】

## 設立発起人



尾藤 光一（北海道）  
株式会社尾藤農産  
代表取締役社長



国定 豪（岡山県）  
有限会社国定農産  
代表取締役会長



三瓶 清志（福島県）  
有限会社さんべ農園  
社員



大野 泰裕（北海道）  
株式会社大野ファーム（北海道）  
代表取締役社長



石淵 大和（熊本県）  
熊本興畜株式会社  
代表取締役社長



堀江 英一（北海道）  
株式会社もち米の里ふうれん特産館  
代表取締役社長



飯野 芳彦（埼玉県）  
飯野農園  
代表



山崎 能央（埼玉県）  
株式会社ヤマザキライス  
代表取締役社長



田仲 利彰（茨城県）  
株式会社農業生産法人田仲農場  
代表取締役社長



中林真一郎（三重県）  
有限会社中林牧場  
本社農場長



濱田 栄治（石川県）  
農事組合法人 アグリスターオナガ  
代表理事



國田 誠（愛媛県）  
國田農産有限会社  
代表取締役社長



金子 健斗（新潟県）  
金子農園  
代表



佛田 利弘（石川県）  
株式会社ぶった農産  
代表取締役会長

◇設立セミナーは、チラシに記載のQRコードでどなたでもご参加頂けます。

◇当会への入会については、設立発起人にお問い合わせ下さい。

◇正会員は、開発実証・普及教育・事業企画・組織運営の部会に参画し、個別のプロジェクトを組成し、具体的に成果を上げることを目的としています。実際には、会費のほかに費用負担が生じます。

発起人代表 尾藤光一（株式会社尾藤農産 代表取締役）

発起人事務局 連絡先メール mot.agriculture@gmail.com

事務局 東京都千代田区紀尾井町3番29号日本農業研究会館4階 一般社団法人農業者ネットワーク内

# 【プラチナファームの会】 日本農業技術経営会議設立に向けて

Japan Agricultural Management of Technology Conference (JAMOTC)

- 優れた生産と技術創出のために -

## 日本農業技術経営会議キックオフ

【日時】令和7年2月3日(月) 13時 総会 14時 セミナー 参加申込(先着順) 会場参加 200名 WEB参加 300名  
【会場】砂防会館別館1階 信濃会議室 東京都千代田区平河町2丁目7-5 電話番号: 03-3261-8386

◇日本農業技術経営会議【通称 プラチナファームの会】とは

技術経営 (MOT: Management of Technology) は、「技術と経営のシナジー(相乗効果)を最大化する」ことであり、技術やサービスに立脚する企業や組織が、改革発展のために価値を創出する活動を行い社会に貢献することです。今日の日本農業にあっては、この考え方を本格的に導入した「農業技術経営」を実現し、篤農家や伝統的に継承されている農業技術や地域マネジメントを更に大胆に発展させてゆくことにより、農業生産・農村地域の技術経営によってイノベーションを創出し、持続的かつ、豊かで成長を持続する分野にしてゆきたいと考えています。

具体的には、現場が抱えている課題を農業者と企業団体・研究機関が協働で技術開発と実証普及のプロジェクトを組成し、実践する取組を行います。また、この活動を広く知ってもらうことや農業 MOT 人材育成にも取り組みます。

### 【日程】

◇総会 (会員予定者) 信濃会議室  
1300 設立総会

設立総会(案内者のみ)・セミナー申込サイト  
<https://forms.gle/W7qs2hMQnPAPoNEBA>



◇設立記念セミナー 信濃会議室

(会場 200名 Zoom300名 いずれも先着順 1/26(日)締切 参加無料 資料代 2,000円)

Zoom 接続の場合も参加申込 QRコードを申込頂きますと、接続アカウントを1/29中にお送りします。

1330 受付

※接続アカウントが届いていない場合は、1/30午前中までメールにてご連絡ください。

1400 開会 主催者挨拶 来賓挨拶

1410 主旨説明

1420 講演 技術経営と農業経営(各20分) (敬称略)

1、「技術経営 MOTと中小企業の成長戦略」

北陸先端科学技術大学院大学教授 内平 直志

2、「農業経営発展の歴史と成長課題」

鳥取大学名誉教授 小林 一

1500 報告 農業経営のイノベーションモデルとプロジェクト(各15分) (敬称略)

1、「風土に生きる世界最強科学的家族経営へ」

尾藤農産 尾藤 光一

2、「世界唯一のSRU(土壌研究組合)による科学的土壌最適化」

SRUコンサルタント 須藤 貴之

3、「リードユーザー型衛星データ活用の課題と戦略」

ヤマザキライス 山崎 能央

4、「農業者発の小型可変施肥ブロードキャスター開発」

田仲農場 田仲 利彰

1600 休憩 (15分)

5、「肉牛生産とバイオマスシステムが十勝の畑を整える」

大野ファーム 大野 泰裕

6、「スマートライスセンターのもたらす成果-品質改善と高温対策-」

サタケ 池田 信義

7、「養豚経営の持続的成長生産システムへの取り組み」

熊本興畜 石渕 大和

8、「農業者が穀殻から創る高機能バイオ炭の展開」

KCL社 国定 豪

9、「水稻土中粒状2段施肥田植技術の開発と効果」

KDBI社 佛田 利弘

10、「創業最速で世界メダルを得た豪雪地帯環境適応型米焼酎ねっか」

ねっか 三瓶 清志

11、「700年続く生体取引の伊賀牛生産によるシンプル高収益モデル」

中林牧場 中林真一郎

1800 講評

1820 閉会

◇懇親交流会 木曾会議室 (会費 8,000円)

1830 挨拶

1930 中締

※2025年1月20日現在のチラシです。不可抗力等で内容が変更になる場合があります。

予めご承知下さい

発起人代表 尾藤光一 (株式会社尾藤農産 代表取締役)

発起人事務局 連絡先メール [mot.agriculture@gmail.com](mailto:mot.agriculture@gmail.com)

事務局 東京都千代田区紀尾井町3番29号日本農業研究会館4階 一般社団法人農業者ネットワーク内

JAMOTC©2025 不許複製